

I 調査概要

1. 調査の概要
2. 結果の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

沖縄観光に関する県民の意識やニーズ及び行政に対する要望等を把握して客観的かつ合理的な分析を行い、実効性の高い観光施策の企画・立案・評価及び沖縄観光ブランドの構築に資することを目的とする。

(2) 調査項目

- ①観光客との接点 (Q1、F7)
- ②沖縄観光に対する意識 (Q2～Q6)
- ③観光産業に対する意識 (Q7～Q9)
- ④観光施策の重要度・達成度 (Q10)
- ⑤観光客来訪による影響 (Q11～Q13)
- ⑥観光税の導入に対する意識 (Q14)
- ⑦将来の沖縄観光のあり方や観光行政に関する意見 (Q15)
- ⑧回答者の年齢、性別、職業などの基本属性 (F1～F6)

(3) 調査対象

- ・母集団：県内に居住する満15歳以上、満75歳未満の男女
- ・調査地点数：200地点
- ・抽出方法：層化二段無作為抽出法

*調査にあたっては、沖縄県内の市町村を北部、中部、那覇市、南部、宮古、八重山の6地域に分類し、人口に応じて比例配分した。この場合、地域間の標本数の差が大きくなり、地域別の精度も異なってくるため、人口数の少ない宮古、八重山地域については、他の地域に比べ2倍の標本数を割り当てた。

(4) 調査方法

留置法（調査票の配布及び回収を調査員が直接個別訪問して行った。）

(5) 調査期間

令和元年10月4日(金)～11月6日(水)

(参考) 前回調査の調査期間 平成30年1月22日(月)～3月8日(木)

(6) 回収数

有効回収数 1,555人

(参考) 前回調査の有効回収数 1,500人

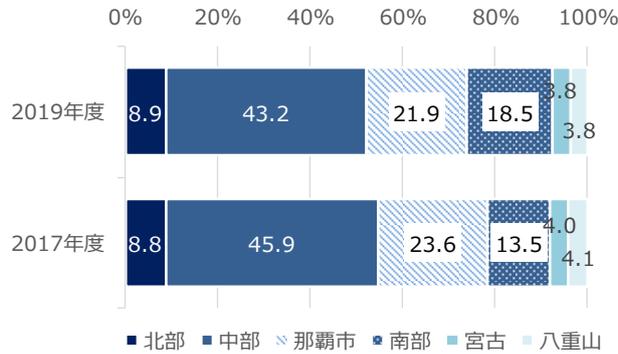
(7) 集計方法

沖縄県の人口構成に合わせるため、各地域の人口構成比をウェイトとしてサンプルに重みづけを行う加重平均によって算出した。

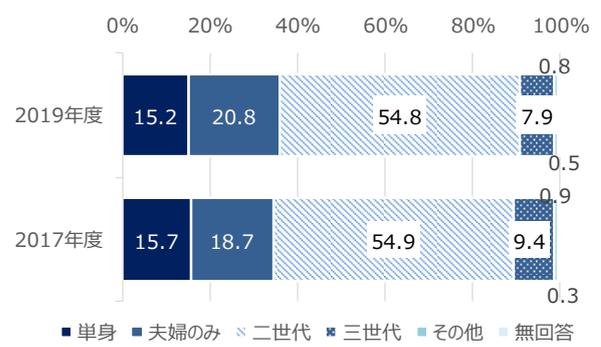
※なお、性別や年代別等属性別の集計については、加重平均処理は行っていない。

(8) 調査対象者のプロフィール

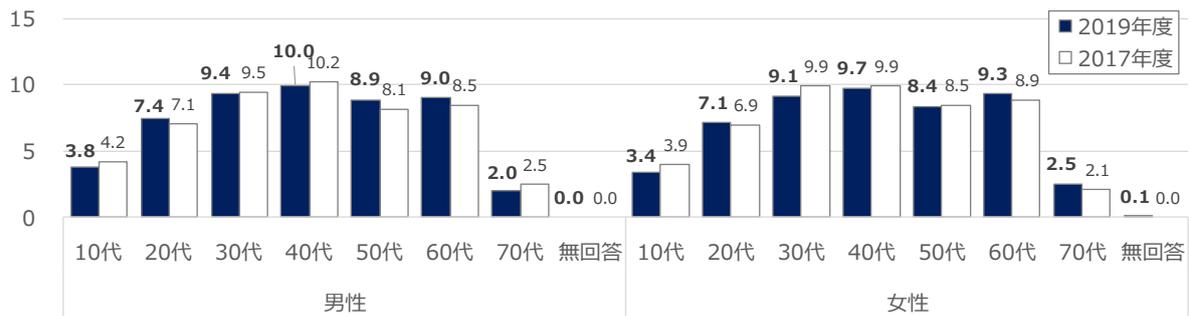
地域別 (%)



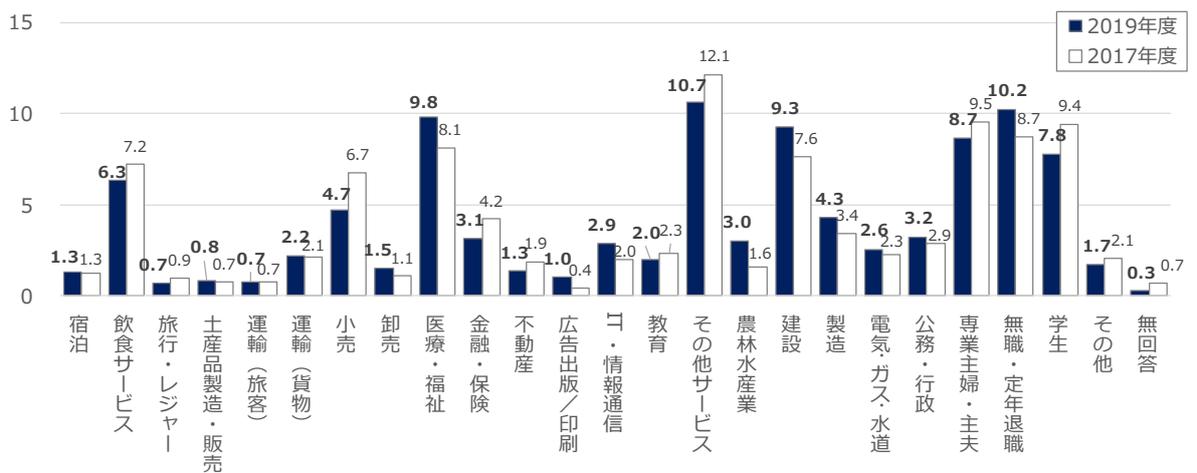
家族構成 (%)



性・年代別 (%)



職業別 (%)



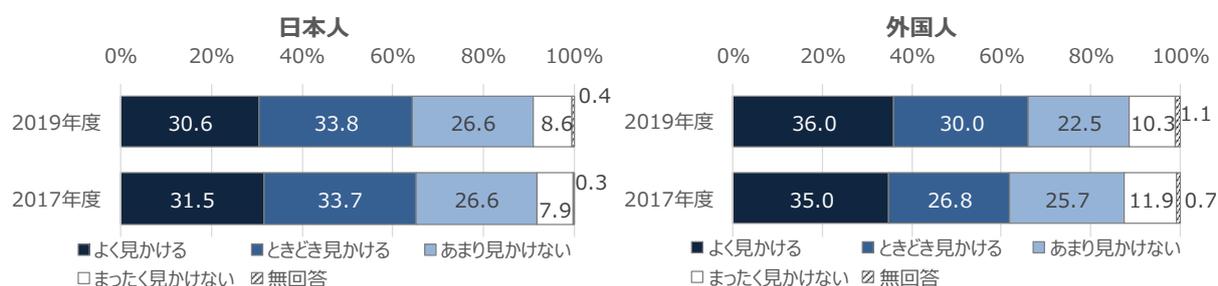
(注) 調査結果中の合計値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

2. 結果の概要

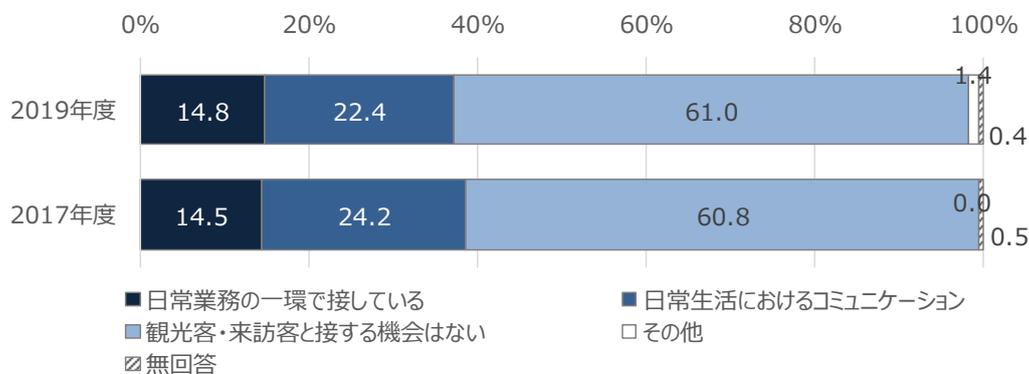
1. 観光客との接点

- ・観光客を「よく見かける」割合は、日本人 30.6%、外国人 36.0% とやや外国人が日本人を上回る。前回調査と比べると、日本人観光客を見かける頻度は同程度だが、外国人観光客を見かける頻度はやや上昇した。
- ・観光客と接する機会は、「日常業務の一環で接している」が 14.8%、「日常生活におけるコミュニケーションで接している」が 22.4%、「接する機会はない」が 61.0%であった。

図表 観光客を見かける頻度



図表 観光客と接する機会

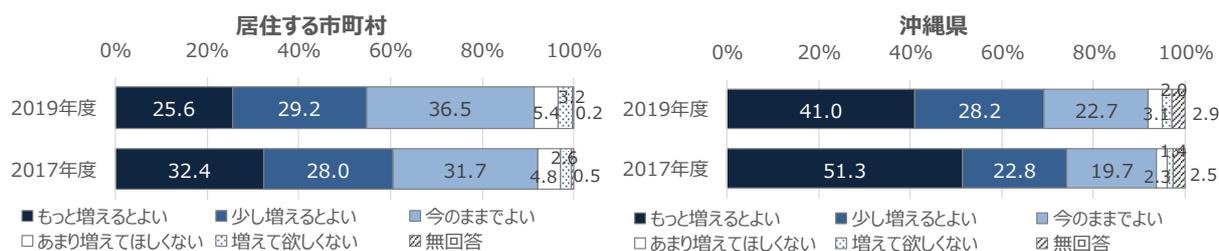


2. 沖縄観光に対する意識

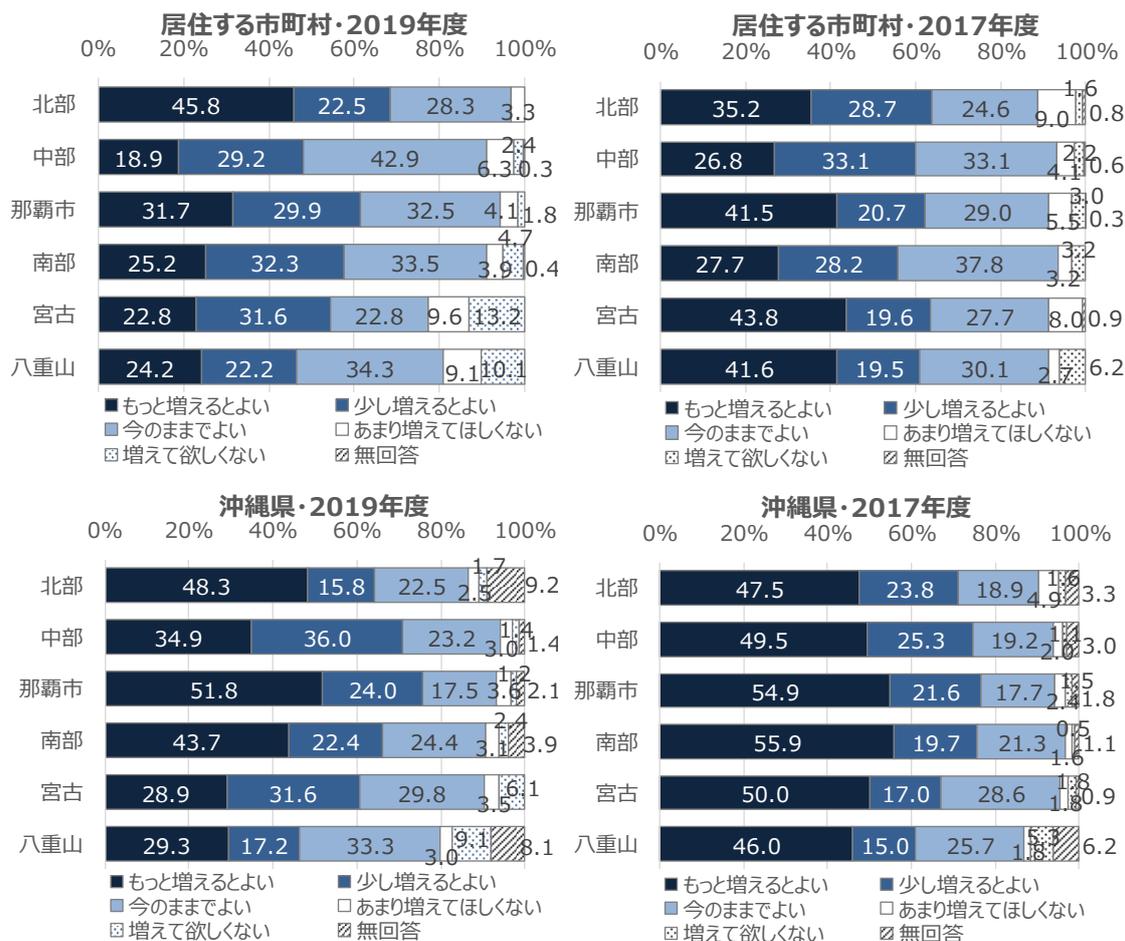
(1) 日本人観光客の来訪に対する考え

- ・日本人観光客の来訪に関して、沖縄県全体としては「増えて欲しい層」が69.2%を占めるのに対し、自分が居住する市町村については「増えて欲しい層」は54.7%に留まる。沖縄県としては増えて欲しいが、居住市町村は今のままでよい、といったギャップがみられた。
- ・前回調査と比べると、居住市町村・沖縄県ともに「もっと増えるとよい」は減少。北部を除く地域で減少しており、特に、宮古、八重山での減少幅が大きい。

図表 日本人観光客の来訪に対する考え



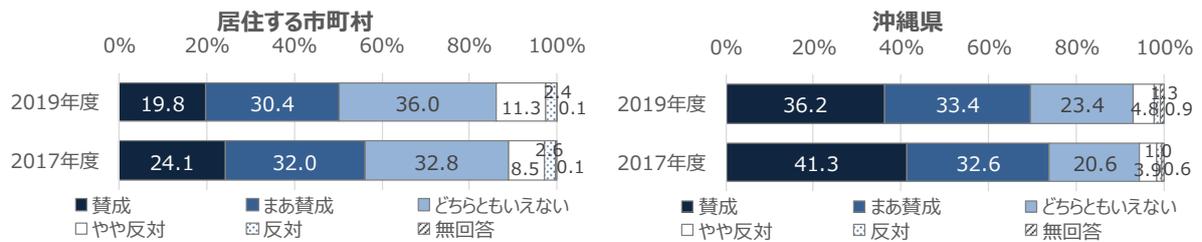
図表 日本人観光客の来訪に対する考え（地域別）



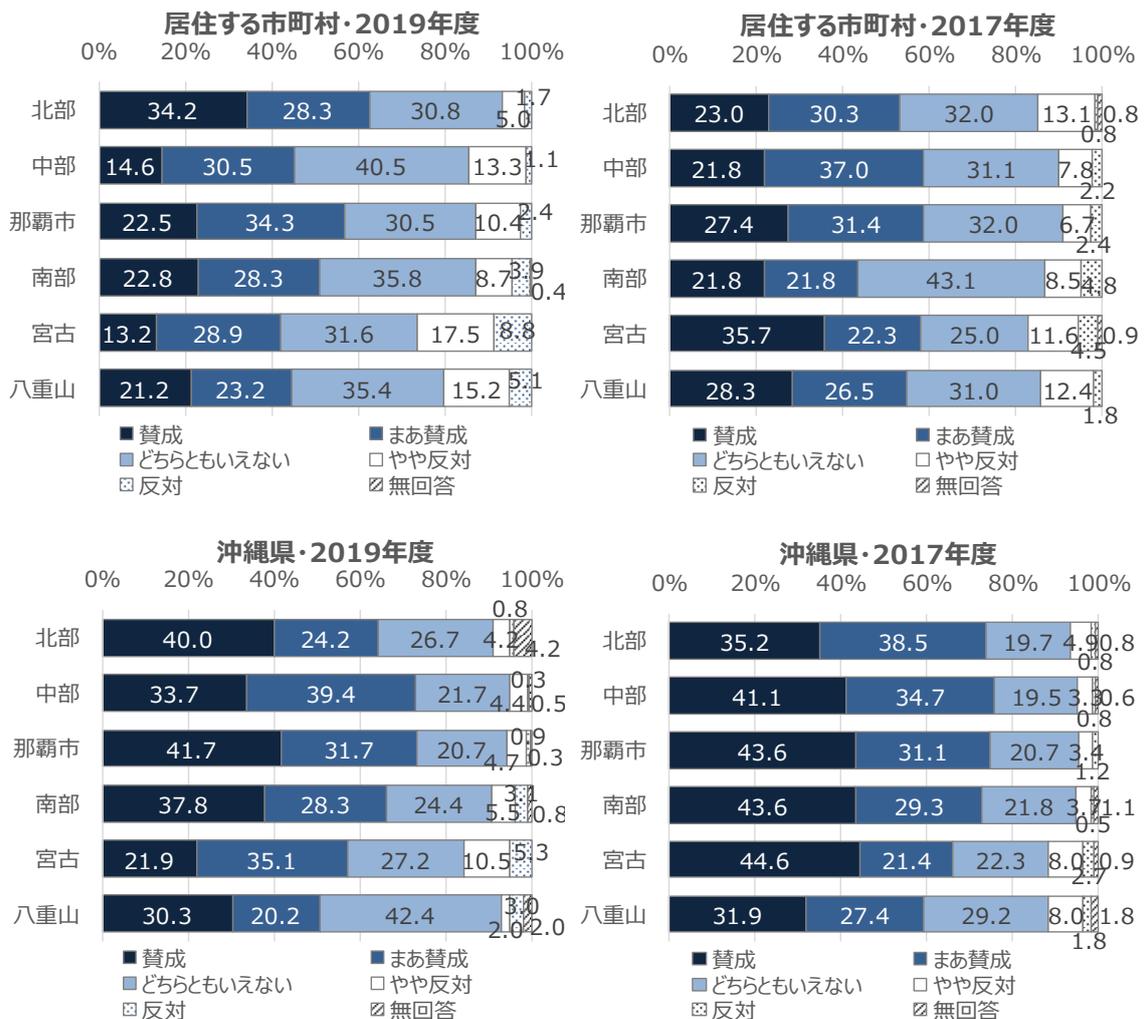
(2) 外国人観光客の来訪に対する考え

- ・居住地域への外国人観光客の来訪についての賛否では「賛成派」50.2%、「反対派」13.7%であった。沖縄県全体としては「賛成派」が69.6%を占めた。
- ・前回調査と比べると、日本人観光客同様、居住市町村・沖縄県ともに「賛成」は減少。特に、宮古での減少幅が大きい。一方、北部では「賛成」が増加。

図表 外国人観光客の来訪に対する考え



図表 外国人観光客の来訪に対する考え（地域別）



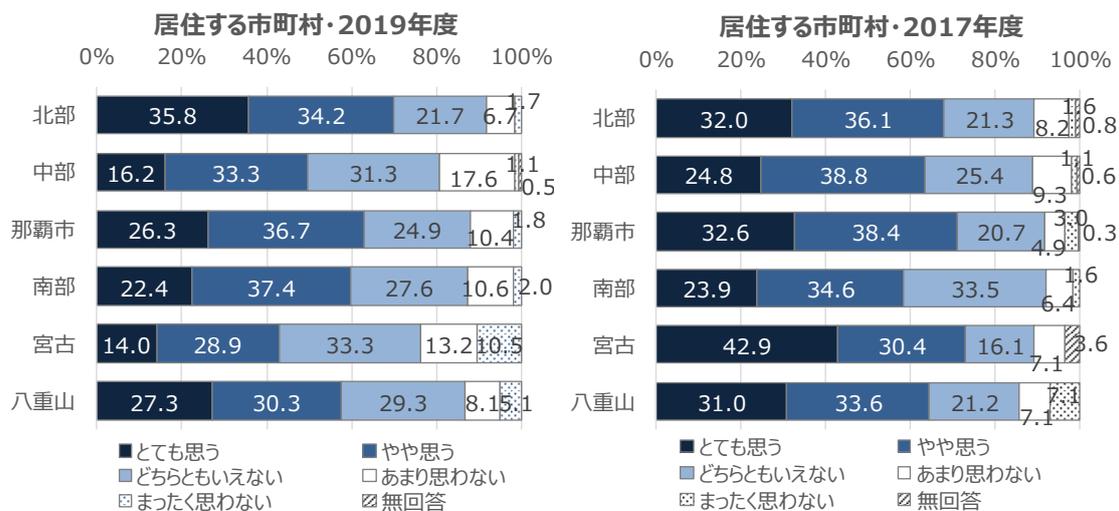
(3) 観光発展への期待

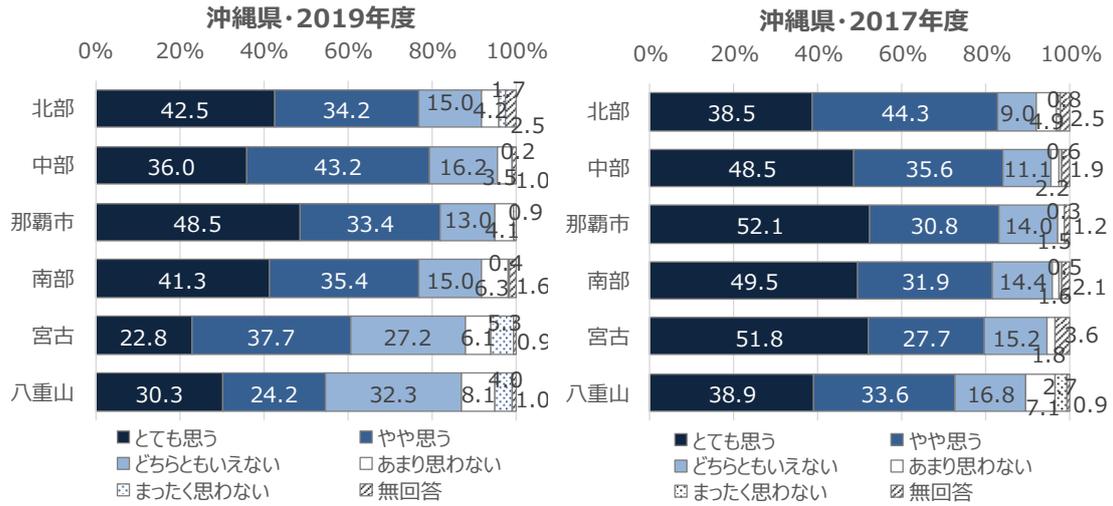
- ・居住地域の観光の発展を期待する人の割合は「期待する派（とても思う＋やや思う）」が56.3%を占め、「期待しない派」15.2%を大幅に上回った。沖縄県全体としては「期待する派」が77.5%を占めており、観光の発展への期待は大きい。
- ・但し、前回調査と比べると、居住市町村・沖縄県ともに「（観光が盛んになるといいと）とても思う」は減少した。特に、宮古での減少幅が大きい。一方、北部では「とても思う」が増加。

図表 観光がもっと盛んになるといいと思うか



図表 観光がもっと盛んになるといいと思うか（地域別）

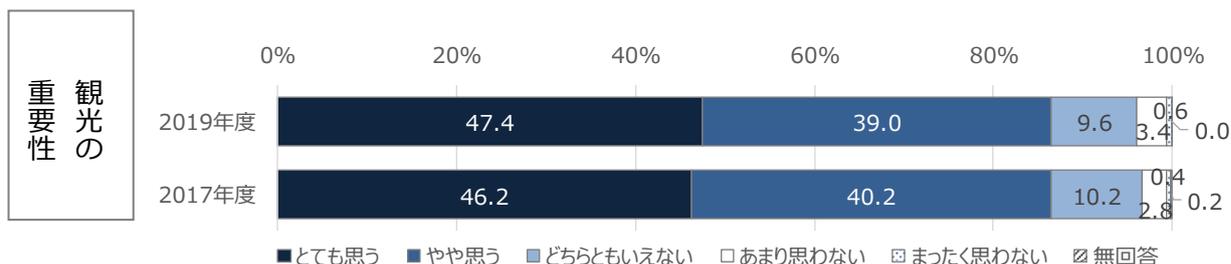




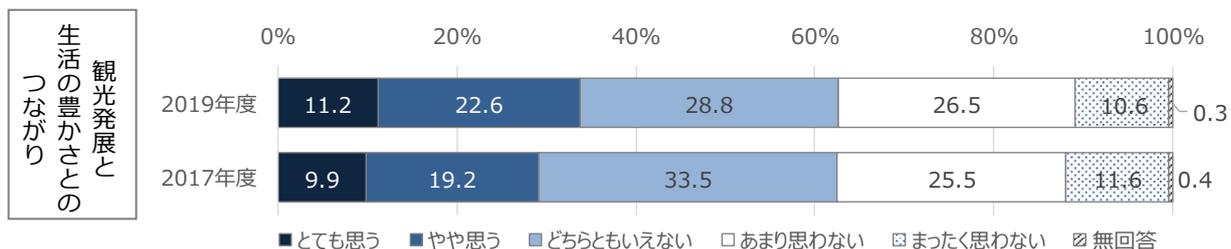
(4) 沖縄の発展における観光の重要性と生活の豊かさとのつながり

- ・沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしているか、と尋ねたところ、「とても思う」が47.4%と約半数を占めた（前回調査とほぼ同程度）。「やや思う」を加えると、86.4%の人が観光の重要性を評価しており、観光が担う役割について共通の認識が形成・維持されている。
- ・その一方で、観光が発展すると自分の生活も豊かになると思うかについては、「とても思う」「やや思う」とあわせた値は前回調査から4.7ポイント増加したものの、33.8%に留まった。観光の果たす役割が多くの人に理解されている反面、生活の豊かさにはつながっていないと考える人は多い。

図表 沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか



図表 観光が発展すると生活も豊かになると思うか

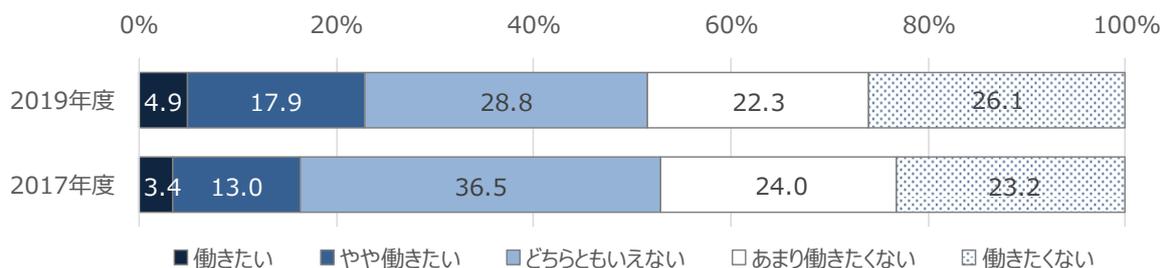


3. 観光産業に対する意識

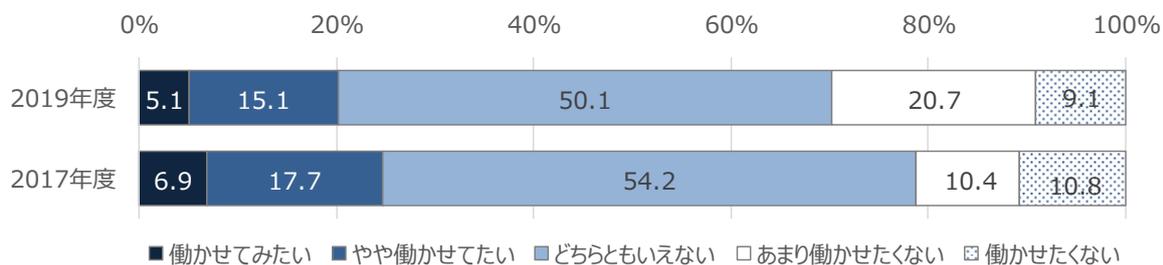
(1) 観光産業への就業意向・就業推奨意向

- ・未就業者に観光産業への就業意向について尋ねたところ、「働きたい」「やや働きたい」あわせて**22.8%**となり、前回調査より**6.4**ポイント増加した。
- ・一方、未就業者の子どもがいる人に対し、観光産業への就業推奨意向について尋ねたところ、「働かせてみたい」「やや働かせてみたい」あわせて**20.1%**となり、前回調査より**4.5**ポイント減少した。「働かせたくない層（あまり働かせたくない+働かせたくない）」も**29.8%**と前回調査から**8.6**ポイント増加しており、子どもへの就業推奨意向は厳しい評価となった。

図表 観光産業への就業意向（未就業者のみ）



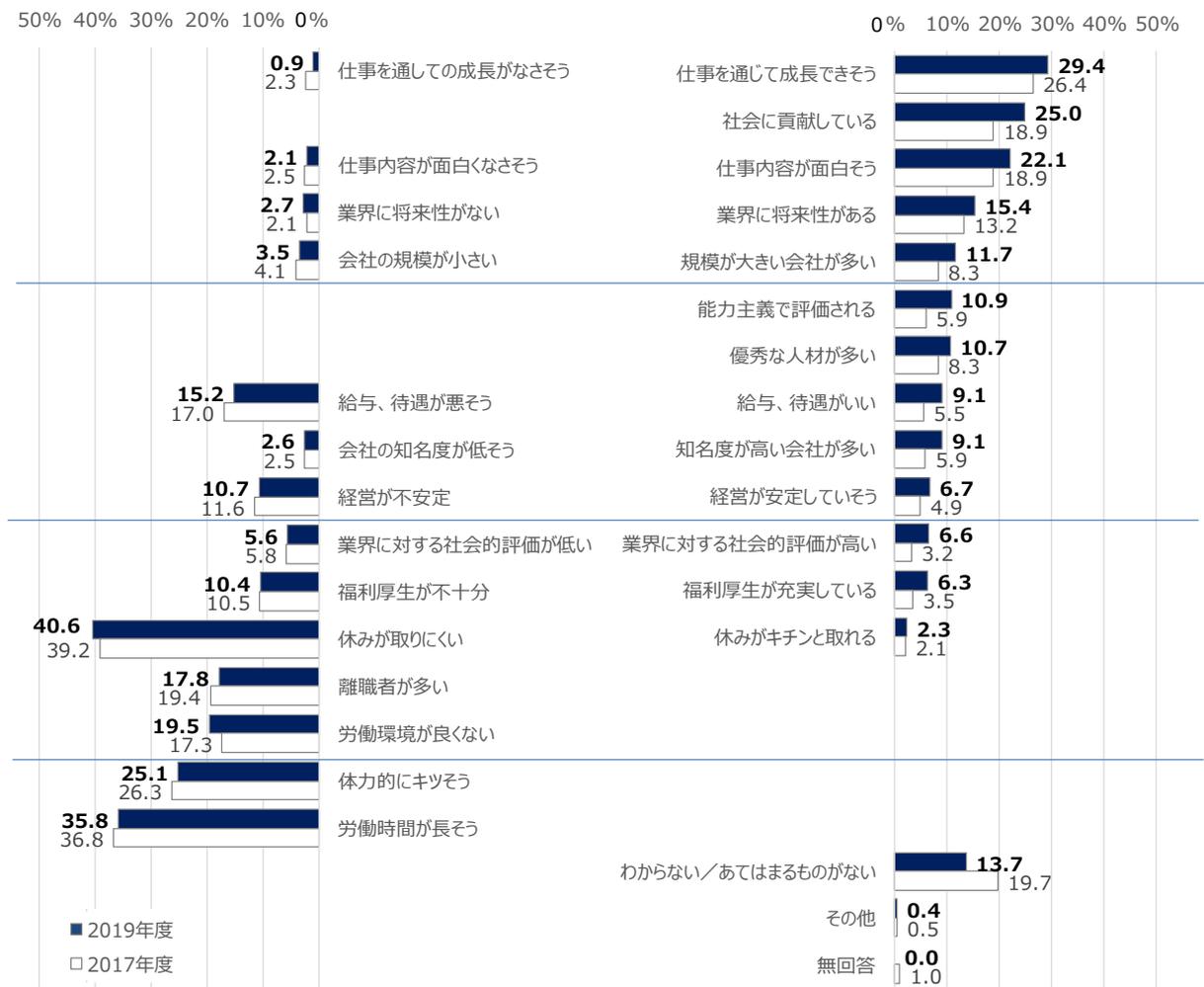
図表 観光産業に対する就業推奨意向（子どもが未就業者のみ）



(2) 観光産業のイメージ

- ・観光産業のイメージとしては、「休みが取りにくい」が**40.6%**で最多となった。以下、「労働時間が長そう」**35.8%**、「仕事を通じて成長できそう」**29.4%**、「体力的にキツそう」**25.1%**と続き、上位にはマイナスイメージが多い。前回調査同様、仕事内容にはプラスのイメージを抱いているものの、勤務形態や待遇面への不安があらわれる結果となった。
- ・その一方で、前回調査と比べて、多くの項目でマイナスイメージは減少、プラスのイメージは増加しており、観光産業イメージの改善傾向がみられた。

図表 観光産業のイメージ【複数回答】



4. 観光施策の重要度・達成度

- ・「環境と共生した持続可能な観光」「沖縄文化の保全・継承・活用」「交通利便性の向上」「沖縄らしい景観形成」「各種キャンプ・大会の開催」「空手の発信、愛好家の訪問」「教育旅行の推進」等は、県民にとって重要度・達成率ともに高い項目であることから、現状の沖縄観光の強みとして、維持・強化していくことが必要である。
- ・一方、「交通事故等のトラブル防止対策」「円滑な移動」「多言語対応」「風評被害対策」「誰もが快適に過ごせる環境整備」等は、県民にとって重要度が高いにもかかわらず達成率が低位に留まることから、県民ニーズが高い施策であると考えられる。
- ・前回調査と比べ、「環境と共生した持続可能な観光」「円滑な移動」「沖縄らしい景観形成」「Wi-Fi環境の整備」「沖縄文化の保全・継承・活用」「地元チームの活用」の重要度が特に高まった。

図表 沖縄観光の各施策の重要度と達成度の関係性

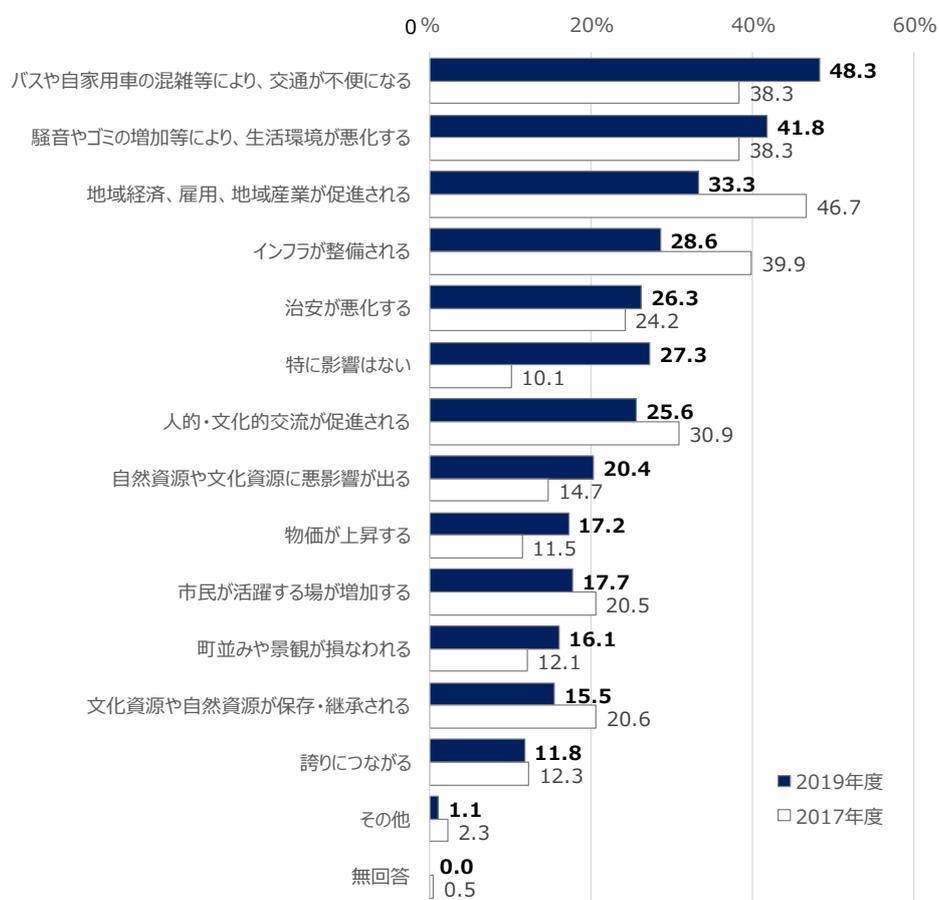


5. 観光客来訪による影響

(1) 観光客が訪れることによる影響

- ・観光客が訪れることによる影響としては、前回調査は「地域経済・雇用・産業の促進」が最も多く、次いで「インフラ整備」であったが、順位が入れ替わり、「混雑等による交通の不便」48.3%、「生活環境の悪化」41.8%が上位2位を占め、「地域経済・雇用・産業の促進」は13.3ポイント減の33.3%となった。
- ・前回調査と比べ、経済・インフラ面を中心とした多くのプラスの影響はポイントを落とし、交通・生活環境などマイナスの影響に対する懸念が高まった。その一方で、「特に影響はない」は17.2ポイント増加した。

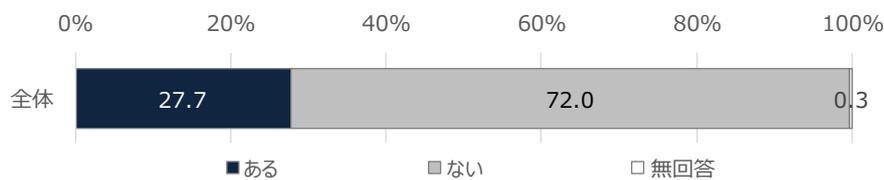
図表 観光客が訪れることによる影響【複数回答】



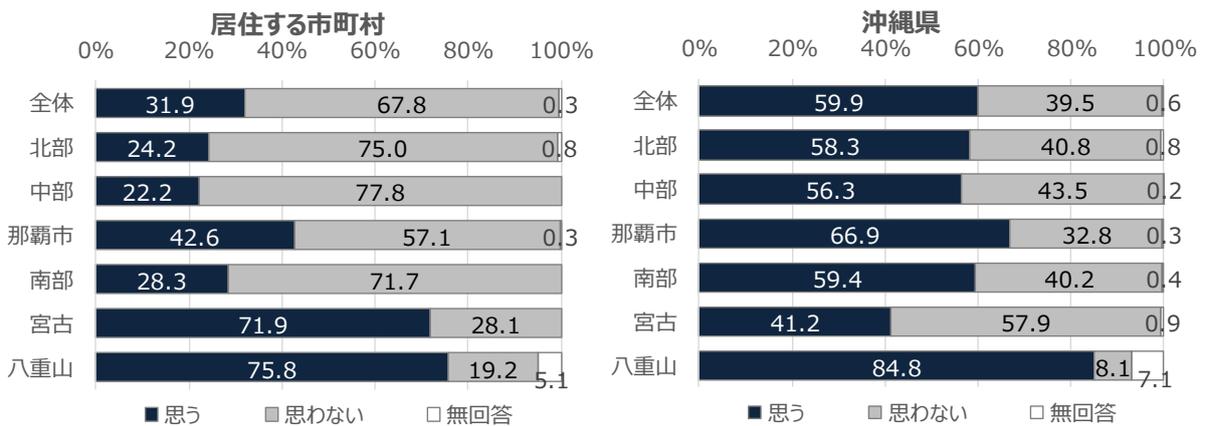
(2) オーバーツーリズムの認知度や県民が感じる課題

- ・この2年で「オーバーツーリズム」という言葉を耳にした・目にしたことがあると回答した人は27.7%であった。居住する市町村で「オーバーツーリズム」が発生していると捉えている人は31.9%となり、特に、八重山、宮古で高い。沖縄県全体では59.9%であった。
- ・オーバーツーリズムの課題として、半数以上が「交通渋滞」を挙げた。以下、「ゴミの増大や散乱」、「交通事故の増加」、「商業施設や飲食店の混雑や不足」、「自然環境の悪化」と続く。
- ・地域別にみると、特に、宮古・八重山で多くの課題が挙げた。全体に比べて、宮古では「自然環境の悪化」「物価の上昇」など、八重山では「交通事故の増加」「治安の悪化」などが目立つ。

図表 この2年で「オーバーツーリズム」という言葉を耳にした・目にしたことがあるか



図表 「オーバーツーリズム」の状況が発生していると思うか



図表 居住地域や沖縄県で発生していると感じる「オーバーツーリズム」に関する課題【複数回答】
(発生していると回答した人のみ)

	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
交通渋滞	88.6	88.7	84.8	83.0	61.4	69.8
ゴミの増大や散乱	50.0	54.7	61.9	63.4	56.8	67.4
交通事故の増加	55.7	51.6	55.0	58.2	51.1	81.4
商業施設や飲食店の混雑や不足	32.9	35.7	50.6	47.7	58.0	53.5
自然環境の悪化	34.3	29.7	42.4	34.0	65.9	44.2
騒音	22.9	37.1	39.8	31.4	37.5	37.2
治安の悪化	12.9	29.4	28.1	24.2	37.5	50.0
交通手段の不足	30.0	25.3	29.9	19.6	25.0	24.4
物価の上昇	7.1	14.6	23.8	30.7	44.3	29.1
私有地等への無断立入	14.3	20.6	29.0	26.8	8.0	19.8
歴史的建造物・遺跡等の汚損・破損	18.6	18.7	24.7	22.9	23.9	19.8
公共サービスの不足	14.3	16.2	24.7	26.1	21.6	22.1
伝統的町並みの破壊や再開発	20.0	13.5	18.2	16.3	35.2	26.7
景観の悪化	12.9	10.7	14.7	16.3	38.6	19.8
地域住民の減少 (周辺環境変化や家賃高騰等による)	12.9	8.8	10.4	11.8	37.5	16.3
悪臭	2.9	9.1	6.9	5.9	5.7	7.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(3) 観光客に関して困っていること

- ・観光客に関して困っていることは、「特にない」と回答した人が60.6%で最多となった。以下、「交通渋滞」24.7%、「ゴミの増大や散乱」14.9%、「交通事故の増加」14.1%、「商業施設や飲食店の混雑や不足」11.6%と続く。地域別にみると、特に、北部において、「特にない」という回答が目立つ。

図表 観光客に関して困っていること【複数回答】

	(%)						
	全体	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
特にない	60.6	79.2	67.5	45.6	64.2	21.9	45.5
交通渋滞	24.7	10.8	21.9	40.2	23.2	15.8	15.2
ゴミの増大や散乱	14.9	5.8	11.9	22.8	16.5	15.8	16.2
交通事故の増加	14.1	5.8	11.6	19.5	17.3	10.5	18.2
商業施設や飲食店の混雑や不足	11.6	3.3	8.7	15.4	14.2	19.3	21.2
騒音	9.1	2.5	7.1	16.3	9.1	7.0	8.1
自然環境の悪化	7.4	2.5	5.1	10.9	7.5	21.9	11.1
治安の悪化	6.3	0.0	5.1	9.5	6.3	8.8	13.1
私有地等への無断立入	5.6	0.8	4.3	10.4	7.1	0.0	3.0
交通手段の不足	5.1	0.8	4.0	8.3	5.5	3.5	9.1
公共サービスの不足	4.6	0.8	2.1	7.7	7.5	8.8	7.1
物価の上昇	4.5	0.0	2.5	7.7	6.3	9.6	6.1
歴史的建造物・遺跡等の汚損・破損	3.8	0.8	3.3	5.3	5.5	0.9	3.0
伝統的町並みの破壊や再開発	3.0	0.8	1.4	6.2	2.8	9.6	3.0
景観の悪化	2.5	0.8	1.1	3.6	3.9	7.9	3.0
地域住民の減少（周辺環境変化や家賃高騰等による）	2.1	0.0	0.5	3.0	2.4	15.8	5.1
悪臭	1.4	0.0	1.4	1.5	2.0	0.9	1.0
その他	4.7	2.5	3.7	5.0	8.3	4.4	4.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6. 観光税の導入に対する意識

- ・観光税の活用方法としては「道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備」が52.8%と最も多い。次いで「海などの自然環境の保全」51.3%、「ゴミ処理」44.0%と続く。環境美化や自然環境保全への活用が多く望まれている。

図表 観光税を導入した場合の活用方法【複数回答】

